

バンコクでアグリテクニカアジア

28カ国300企業が出展

北農工など日本企業も多数



世界各国からの来場者で賑わった



北農工のブースで

DLG（ドイツ農業協
会）などの共催による「アグリテクニカアジア」のインターナショナル
2018」が8月22〜24
日、タイ・バンコク市内
のインターナショナル
センターで開催された。
今回は海外28カ国約30
0の企業が出展。トラク
タ前回は次いで2回目の
今回は海外28カ国約30

タやコンバインをはじめ、田植機や畑作畜産向け各種作業機から、灌漑システム、再生可能エネルギー関連機器、ICTを活用したスマート農業製品まで多彩な製品が展示された。

出展メーカーに声をかける「タイ国内と、日本企業も多数参加。ジャパンパビリオンでは北海道農業機械工

だけでなく中国、ミャンマー、フィリピンなど隣国をはじめとする海外からの来場者も多い。海外勢が来場者の約半分くらいではないか」「生産者の来場はやはり少ないものの、商社などが真剣に物色しに来ている。今回、廃棄物処理の機械が1セ

また、生物資源循環の環境社会を目指す緑産はTMR給餌機を展示した（詳細次号）。

またオーレックは乗用草刈機、大橋も樹木粉碎機の実機を展示。大橋は実演ブースを別に用意し、希望者に破碎デモを行った。

業会ブースには会員企業から申込んだIHIEアグリテック、石村鉄工、エフ・イー、本田農機工業が自社製品についてパネル展示。英訳版のカタログなども用意してPRに努めた。

また、生物資源循環の環境社会を目指す緑産はTMR給餌機を展示した（詳細次号）。